

斯の如きは畢竟愛か松大されたる自己矛盾、再生産の外ならぬ。帝主義の本質的矛盾たる征服國家と被征服國家との対立、征服國家相互の対立、ブルジョアとプロレタリアとの深刻化されたる對立は、現實に於て打倒帝主義、我々の支那革命運動の上、最近開かれたる、軍部會議の上、かの英國空軍の會議の上、その歴然たる徴候を示してある。

斯の如きは、今日の所謂安定が如何に不安と矛盾と下満たされたる安定なるかを如何に物語するものでなくてはならないか。

世界資本主義の環を我が國の資本主義の世界大戰に於ける特殊の事情並に後進資本主義國としての特殊事情に立つとは云へ、而して一般傾向、例外たり得ない。斯くて世界資本主義の一的安定の過程は世界無産階級の犠牲の増大を意味するものなるか故に必然的に無産階級運動の尖鋭化を促進するものたるを信するものである。

(二)

斯くて世界資本主義の情勢の推移を前記して國際的無産階級運動の主流は雖然たる三大陣営に分裂してゐる。即ち此の安定に肯定的態度を示す第二インターナショナルと之に反對する第三インターナショナルとである。然して各國無産階級運動は此の國際的主流と各々の特殊性と照應して、諸種の特徴を呈するを見る。社會主義的建設に入らんとする露

西風に於ける共產党、世界資本主義の玉座より墜落し行く英國に於ける小教派運動の培頭、安定の飛躍的過程にある合衆國に於ける労働組合萬能主義の全盛、独逸其他の中欧諸國に於ける混沌状態、支那印度等に於ける共產主義的民族運動の勃興、日本に於ける統一を前提とする分裂的現象は即ち之である。

即ち世界の無産階級運動は一般的に第一、第二、第三、両インターナショナルの対立、特殊のものは各國資本主義の情勢に照應する運動、此の相互關係の裡に進展してあるを見るのである。

應つて之を我が無産階級の實際に照らすと、其の陣営は、今尚我國資本主義の特殊の照應して分散的個別的形態を持續し、之れは内部に概して小企業に據る組織と特徴とを加へ、各自発展の段階と組合の闘争の性質と異なり、稍なりは派閥を呈し、組合利己心と醜態を来り、その間に統一されたる條件を見出し難き現状にあるを不問を得ず、而して我國の無産大衆は、その大部分が支配階級の欺瞞と懐柔と強壓の下に曝されつゝある。之に於て統一を期し、我組織の分崩者は無産大衆の前提として支配階級の彈壓に直面すべく協議せしめられざる。然るに此の前提は國際的無産階級運動の觀念的影響を最も多く蒙り、先進諸國に成熟せる種々な指導精神を押し